

PRESS
RELEASE
2019年10月
報道関係各位
プレスリリース



香雪美術館 コレクション展

「武家と茶の湯」

2019年10月26日（土）～12月20日（金）

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平^{りょうへい}(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。当館では、所蔵品を「コレクション展」として公開するとともに、春と秋に日本美術などの作品を紹介する「企画展」を開催しています。

秋季は、コレクション展として「武家と茶の湯」展を開催いたします。武家に縁^{ゆかり}のある茶道具を中心に約60点を紹介します。

「武家と茶の湯」

鎌倉時代以後、将軍家や大名などの武家は、はるばる大陸からもたらされた茶器や美術品を、「唐物」と称して珍重しました。また、桃山時代から江戸時代初期にかけて、わび茶の形成に大きく貢献した千利休(1522～91)に続き、古田織部ふるた おりべ (1543～1615) や小堀遠州こぼり えんしゅう (1579～1647)らの大名が茶人として活躍し、茶の湯の新たな潮流を作り出していきました。江戸時代には、茶の湯は武家にとって必須の教養となり、松平不昧まつだいら ふまい (1751～1818)など、茶の湯に深く傾倒した大名は少なくありません。

本展では、香雪美術館所蔵の村山コレクションから、武家に縁のある茶の湯の道具約60点を紹介します。



会 期	2019年10月26日(土)～12月20日(金) 月曜日、11/5(火)休館 (ただし、11/4、11/25は開館)
開館時間	※作品保護のため、一部展示替えを行います 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般700(550)円、高大生450(350)円、中学生以下無料 *()内は20名以上の団体料金
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

第1章 戦国大名と利休七哲^{りきゅうしちてつ}

将軍や大名などの武家では、はるばる中国からもたらされた茶器や書画を、「唐物」と称して珍重し、賞玩しました。

豊臣秀吉に茶頭として仕え、わび茶を大成した千利休は、多くの大名・武将たちに茶の湯を指南しました。利休の孫である千宗旦は、そのなかから「七人衆」として、前田利長、蒲生氏郷、細川忠興、古田織部、牧村兵部、高山右近、芝山監物を挙げています。後には前田利長が瀬田掃部と入れ替わるなどして、俗に「利休七哲」と総称されるようになりました。

このうち古田織部（重然：1543～1615）は、利休による質素を旨とする美意識とは真逆の、歪んだ形の茶器を茶の湯に用いて、大胆にして奇抜な美的感覚を茶の湯に取り入れました。



Ⓐ 重要文化財 梁楷 布袋図
中国・南宋時代 13世紀
前期展示：10月26日（土）～11月17日（日）



Ⓑ 唐物 肩衝茶入 銘「薬師院」
南宋～元時代 13～14世紀

第2章 小堀遠州

小堀遠州^{まさかず}（政一：1579～1647）は、近江（滋賀県）出身の大名で、建築普請に優れた才能を発揮して幕府関係の城や禁裏関係の御所などの作事奉行を歴任し、最後は京都および畿内の司法・行政官である伏見奉行を務めました。また作庭にも携わり、二条城二の丸御殿や南禅寺金地院などの庭も手掛けています。

遠州は古田織部に茶の湯を習いましたが、織部が歪みを伴う力強い造形性の茶器を好んだのに対して、「きれいさび」と呼ばれる、端正で洗練された茶器を好みました。また、瀬戸（愛知県）や高取（福岡県）など、国内の窯で作られた茶入のなかから、自らの審美眼に合う茶入を選びとり、和歌にちなんだ銘を付けて、新たな名物道具を創出しました。



㊦ 小堀遠州 唐竹花入
江戸時代 17世紀

第3章 松平不昧

松平不昧^{はるさと}（治郷：1751～1818）は、出雲国松江藩の第7代藩主。江戸幕府の御数寄屋頭・伊佐幸琢^{さこうたく}に石州流を学んで、若年から多くの茶書に目を通して茶道研究を行い、若干20歳にして最初の茶道論『贅言』^{むだごと}を執筆しました。

遠州の茶の湯に憧れて、遠州ゆかりの茶道具を精力的に収集しました。その収集品は900点以上に及び、後に「雲州名物」と呼ばれました。また、茶の湯の隆盛に伴い、世上に増えた名物道具を分類・体系化するべく、『古今名物類聚』^{ここんめいぶつるいじゆう}や『瀬戸陶器濫觴』^{せととうまかんしやう}などの編纂にたずさわりました。不昧による「大名物」や

「中興名物」^{ちゆうかうめいぶつ}などの分類は、現在まで引き継がれており、その茶器に関する価値観は後代にまで強い影響を及ぼしています。



㊦ 朝鮮 割高台茶碗 長束割高台
朝鮮時代 16世紀



㊦ 原羊遊齋 菊時絵大棗
江戸時代 文化14年（1817）

第4章 大名家の茶の湯

江戸における将軍や大名との交流において、茶の湯は能楽とともに、大名家にとって必須の教養となり、各大名家には多種多様な茶器が秘蔵されることとなりました。

大和小泉藩主であった片桐石州（貞昌：1605～1673）は、4代将軍家綱に召されて御道具奉行を務め、その際に献上した『石州三百ヶ条』が将軍家における茶道の規範となつたとされています。

大名のなかには、松平不昧をはじめ、仙台藩主伊達綱村（1659～1719）や姫路藩主酒井宗雅（忠以：1756～90）のように、儀礼上の必要性にとどまらず、茶の湯に傾倒し茶器を収集する大名も現れました。また、加賀藩主前田家では、茶人金森宗和（1584～1657）の好みをとり入れ、京都の陶工野々村仁清が制作した茶器が用いられました。



図 野々村仁清 色絵忍草文茶碗
江戸時代 17世紀

主な出展作品

番号	指定	作者・産地	作品名	時代	所蔵
A	重要文化財	梁楷	ほていず 布袋図	中国・南宋時代 13世紀	香雪美術館
B		唐物	かたつきらやいれ めい やくし いん 肩衝茶入 銘「薬師院」	中国・南宋～元時代 13～14世紀	香雪美術館
C		小堀遠州	からたけほなれ 唐竹花入	江戸時代 17世紀	香雪美術館
D		朝鮮	わりこうだいちゃわん なつかわりこうだい 割高台茶碗 長束割高台	朝鮮時代 16世紀	香雪美術館
E		原羊遊斎	まぐまぎえ おおなつめ 菊蒔絵大棗	江戸時代 文化14年（1817）	香雪美術館
F		野々村仁清	いろえしのぶくさもんちゃわん 色絵忍草文茶碗	江戸時代 17世紀	香雪美術館

FAX: 078-841-1402

取材・写真使用申込書



(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください

作 品 画 像	ロ グ 画 像
---------	---------

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に香雪美術館広報担当宛に確認のためお送り
くださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「香雪美術館」 武家と茶の湯展係 担当：落合 (おちあい)
TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目-12-1